

古代の暮らしぶり 見学や体験で学ぶ

富士見小 井戸尻考古館を訪問

富士見町富士見小学校の3、6年生は、同町池袋の井戸尻考古館を訪問し、見学や体験を通じて縄文時代を学んでいる。4年生66人は21日、総合的な学習の一環で訪れ、曾利遺跡の発掘現場を見たり、土器の表面採集をしたりして、古代の暮らしぶりについて理解を深めた。

児童たちは考古館学芸員の副島蔵人さんに教わって弓矢の体験から開始した。持参した段ボールの動物や魚を目標に、イチイの木でできた弓に矢をつがえて発射。副島さん

は、アフリカなどで行われている狩猟の特徴から「正確に飛ばすことよりも、獲物に近づく方が重要」と説明した。遺跡見学では、丸い形の縄文時代の住居址と四角い形を

した平安時代の住居址を見比べ、当時の生活について話を聞いた。発掘されていない場所では、土器片や黒曜石などを探索。石を見つけては副島さんに鑑定してもらい、本物と分かる、「やった」と歓声を上げていた。

見学を終えた島田颯斗君(9)は「弓矢で獲物を捕って生活していたなんてすごい。土器や石器を見つけられて楽しかった」と話した。



曾利遺跡で表面採集した土器や石器を手にする富士見小4年生